

## はじめに

今日、人間はもはや、他人が次に何をしようとしているかを判断するにあたって文化をあてにすることはできない状況に徐々に追いやられている。常に見知らぬ人と相互作用をもつ立場に立たされている人間は、もう一步踏み出して自分の属する文化を超越する努力を始めねばならない。それは、安楽椅子に座っていてできることではない。

(エドワード・T・ホール『文化を超えて』岩田慶治／谷泰訳)

日本を理解するということは、日本語を理解して足りるというのではなく、その背後にある風土、生活習慣、社会的状況、価値観等、日本という国を多角的かつ総合的にながめてはじめて可能となるものです。また、そのような視点を持つことが有意義な留学生活を送る上で必要不可欠です。

しかし、それはまた今まで常識と思っていたことや無意識に身についた行動様式・思考様式をいったん我が身からはぎ取り、その意義や普遍性を逐一問い直すことを意味するばかりか、一見理不尽と思えるようなことに対しても理解しようとする姿勢を持たなければならないことを意味します。それは、見知らぬ土地で一人で生活する者にとっては、大変な作業かもしれません。日常の些末なこと一つ一つ、自分自身の力で答えを見いだしていかなければならないからです。

それでもなお、私は人生の重要な時期に「留学」という道を選択した皆さんを大いに歓迎し、激励したい。なぜなら「留学」は何にもまして私たちに生きる意味を教えてくれる極めて貴重な人生経験だからです。生きるとは何かという問いに、異文化での実体験と照らし合わせながら対峙させてくれるものは、留学をおいて他にありません。

本書は、以上のような考えのもと、これから日本での生活を始める留学生に、日本に対する理解を深め、有意義な留学生活を送られることを願って作成されました。本書が皆さんの留学生活に少しでも寄与するものがあればこれに勝る喜びはありません。これからの留学生活を通じて人生に新たな地平が開かれることを切に祈ります。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、写真掲載を快諾してくださった各方面の方々、写真撮影や翻訳に協力してくれた別府大学学生諸君、試作版の段階でさまざまな示唆を与えてくださった先生方や留学生、そして、何よりも最後まで粘り強くつきあってくださった株式会社クリエイツ森宗明社長に心より深く感謝いたします。

## Introduction

Today, man is increasingly placed in positions in which culture can no longer be depended upon to produce reliable readings of what other people are going to do next. He is constantly in the position of interacting with strangers, so he must take the next step and begin to transcend his culture. This cannot be done in an armchair.

(Edward.T.Hall Beyond Culture)

An understanding of the Japanese language alone is not sufficient to understand Japan. In addition, it is necessary to have a broad understanding of Japan's climate and landscape, daily customs, social conditions and its sense of values. This is essential in leading a fulfilled life as a student here. This necessarily means you should reassess what you hitherto knew as common sense and alter your preconceived ways of thought and action. It also means you should keep an open mind to those things that may be thought of, at a cursory glance, as 'unfair'.

This is asking a lot of an individual living in a new and unfamiliar environment, but you will need to find ways of responding one by one to matters, large and small, that daily life will bring.

At an important stage in anyone's life you have decided to come to Japan as an overseas student, something we welcome and wish to encourage you in. More than anything else your decision brings to you a very important opportunity to learn the meaning of 'to live'. That is, your life here will cause you to deal and cope with experiences in this foreign culture.

This book has been conceived with this in mind. It is our design and hope that it will help you towards a better understanding of Japan and to lead a fulfilled life as an overseas student here. We sincerely hope that through your experiences new horizons will open up to you.

Our deepest gratitude goes to the many people who have made this book possible; to those who consented to the use of their photographs; to the students of Beppu University who took other photographs and made translations; to the teachers and overseas students who gave various suggestions during the book's trial stage; and to Akira Morimune, Company President of Creates Co. Ltd., for above all his tenacious perseverance in this book's production.

# 凡 例

## 教科書の内容とその使い方

### 1) キーワード

それぞれの課に出てくるキーワードを提示した。

### 2) ウォーミングアップ これ、なに？

それぞれの課のテーマへの関心が高まるような物を取り上げた。

### 3) 基礎知識

それぞれの課で習得すべき項目を提示した。また、キーワードはゴシック体で示した。

### 4) 練習

知識の定着や理解の深化を図るための問題を提示した。

### 5) こんなときどうする？

学習した知識と実生活との連携を図るよう配慮した。

### 6) 宿題

次の課に向けて導入的課題を提示した。

### 7) 別冊解答

本文中の「問題」の解答を提示した。

# もくじ

にちじょうせいかつへん 日常生活編 .....		1
だい 1 課 第 1 課	あたらし せいかつ 新しい生活	2
だい 2 課 第 2 課	いえ 家のまわり	6
だい 3 課 第 3 課	あんぜん かんり 安全管理	10
だい 4 課 第 4 課	いえ 家	14
だい 5 課 第 5 課	しょくじ 食事	18
だい 6 課 第 6 課	アルバイト	22
ふくしゅう 復習 A		26
にほん りんかくへん 日本の輪郭編 .....		28
だい 7 課 第 7 課	こくど 国土	29
だい 8 課 第 8 課	ライフサイクル	35
だい 9 課 第 9 課	ぶんか 文化	41
だい 10 課 第 10 課	せいど 制度	47
だい 11 課 第 11 課	けいざい さんぎょう 経済と産業	53
だい 12 課 第 12 課	れきし 歴史	59
ふくしゅう 復習 B		65
しりょう にほんこくけんぽうぜんぶん やく (資料)日本国憲法前文・訳		68